

北海之光

12月号 北海道教区報

あなたの出で立つのも帰るのも
主が見守ってくださるように
詩編 121 編 8 節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12
日本聖公会北海道教区事務所
電話 011-717-8181
FAX 011-736-8377
E-mail:hikari@nsskk-hokkaido.jp
http://www.nsskk-hokkaido.jp
発行人 植松 誠



「クリスマスのちから」

札幌キリスト教会牧師補

執事 クリストファー 永谷 亮



「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」

(ルカ二：一〇～一一)

クリスマスの一連の出来事での聖家族の物語は、わたしたちの物語でもあります。聖霊によって身ごもったマリアは自分の身に起こったことと将来のことを考えて不安でした。誠実な夫ヨセフはマリアとの縁を切ろうとも思いません。神さまのご計画によって、救い主がおとめに身ごもったことは、その当事者である二

人を大いに恐れさせることになったのです。しかし、その二人に天使が現れ、言うのです。「恐れることはない」と。人の想像を超えるようなことが起こりつつあるとき、そのような言葉だけで、不安や恐れを取り去られるでしょうか。しかし、ヨセフは天使の言うとおりにマリアを迎え入れ、マリアは「お言葉どおり、この身に成りますように」と、若い二人は信頼の道を歩み始めたのです。

を開いたのです。ヨセフとマリアの手を開かせるに至った、天使が伝えた神さまのメッセージとはどのようなものでしょうか。それは、「あなたを母の胎に造る前から知っているわたしは、あなたがその手に抱えている苦労や不安をよくよく知っている。だから隠さなくても、恥ずかしがらなくても、恐れなくてもいいのだ。安心なさい、わたしがいつも一緒にいるのだから。」というものでないでしょうか。神さまの大きな愛の力が、二人の手を開かせたのです。

そして、神さまを信頼した二人の心には、決して消えることのない灯火が灯ったに違いありません。貧しい馬小屋で出産しなくてはならない厳しい現実においても、その厳しさの中心に、み子イエス誕生の喜びがあるのです。二人に起きたクリスマスの出来事のゆえに、わたしたちもまた、神さまによってすでによく知られている存在であることを覚えていたいと思います。わたしたちそれぞれの苦労や悲しみの現実を全くご存じの神さまが、その愛により独り子イエスさまを救い主として遣わしてくださいました。なんとという恵みでしょうか。み子の誕生は、神さまの愛と慈しみがわたしたちに注がれていることの特別な証しです。たとえわたしたちがどんなに罪深くても、神さまに顔を向けられなくても、神さまはその温かい救いのみ手を差し伸べてくださっています。わたしたちも、そのみ手におおるおおる、また、信頼をもって手を差し出し、応えましょう。手だけでなくわたしたちの存在そのものが神さまの愛により温かくされ、今日の疲れを和らげ、明日のための力を与えてくださいます。

ですから、わたしたちはもはや、不安や恐れだけを抱えているのではなく、イエスさまという恵みと喜びも一緒にこの腕に抱えていることを、大いに喜びましょう。そしてさらに願い求めたいと思います。

「神よ、あなたのみ言葉を生涯守れるように／僕に豊かな恵みを与えてください (詩一一九：一七)」

日本聖公会北海道教区第七四(定期) 教区会主教告辞



主 教 ナタネエル
植 松 誠

《教区会開催にあたって》

昨日と今日、北海道教区第七四(定期)教区会のために北海道の各地からお集まりくださいました皆様深く感謝いたします。また、この教区会のためにご奉仕くださいました札幌市内の教会の婦人会の方々、会場教会である札幌キリスト教会の方々、書記、補助書記、教区の諸役員や教区事務所職員の方々にも感謝いたします。

北海道教区は日本聖公会で最も広い教区です。札幌圏にある教会は別にして、普段私たちは一緒に顔を合わせることは難しく、ともすると孤立感さえ感じることもあると思います。この教区会は、一年に一度、北海道教区のすべての教会の代表者が共に集うときです。どうぞこの会期中にお互いに知り合い、交わりを

植 松 誠

深めていただければと思います。主なる神様がこの教区会を豊かに導き、祝福してくださいますように、そして、この教区会を通して、イエス・キリストを主と信ずる北海道教区の私たちの絆がますます強められ、共に担う宣教・牧会への新たな力と希望が与えられますようにと祈ります。

今年の教区会には、お隣りの大韓聖公会から二人の司祭様をお客様にお迎えしております。大韓聖公会は今年一月、宣教一二五周年をお祝いになりました。その場に日本聖公会からも多くの聖職・信徒が参列したことに感謝を表すため、また二〇〇九年一月、北海道教区の現役教役者一同が韓国を訪問して、過去の歴史に対して懺悔し、韓国の教会に学び、今後の日韓両聖公会の宣教協働に参画

する決意を表明したことに、大韓聖公会も連帯の意を伝えるために今回北海道教区の教区会にお出でくださったとお聞きしております。心から歓迎し、感謝を申し上げます。

《人事》

今朝の聖餐式の中で、クリストファー永谷亮聖職候補生が公会の執事に按手されました。北海道教区に新たな聖職者が与えられたことを感謝すると共に、永谷新執事の今後のお働きの上に主のお導きと祝福を、そして、同執事を通して北海道教区に主の恵みが豊かにありますようお願いいたします。今年三月、聖公会神学院を卒業された阿部恵子さんは、北海道教区の聖職候補生志願者に認可され、現在札幌市内の諸教会で実習を続けておられます。また、上平更聖職候補生志願者も聖公会神学院で勉学に励んでおられます。これからも、この教区に聖職を志す方が与えられますよう皆様のお祈りをお願いいたします。

司祭、甲斐博邦司祭、内海信武司祭にも、囑託聖職としてご奉仕いただき、それ以外の退職聖職の方々も日曜日の礼拝でご奉仕をいただいていることをこの場を借りて感謝申し上げます。雨宮大朝司祭は定年退職後も囑託聖職として網走聖ペテロ教会でお働きのままでおりましたが、かねてよりの病状が悪化し、一月末をもって囑託聖職の任を終えて札幌に転居されました。しかし、先週末曜日一月一九日の朝、その七四歳のご生涯を終えて、主のみもとに召されていかれました。今晚通夜の祈り、また明日葬送聖餐式が行われます。今までの長きにわたるお働きを心から感謝し、また、網走聖ペテロ教会の信徒の方々、また多くの方々も雨宮司祭を支えくださったことを感謝いたします。雨宮司祭の魂の平安と、寿子夫人及びご遺族の上に、主の豊かなお慰めがありますようお祈りいたします。

《財政》

本教区会では、二〇一四年度の教区会計決算、また二〇一六年度の予算が審議されます。さる一〇月一〇日に開かれた各教会の会計担当者

会では、教区の一般会計、また教役者給与会計がかなり逼迫していることが明らかになりました。原則的には、これらは、特に教役者給与会計は各教会から教区への「分担金」という献金で賄われることになっていきます。しかし、会計担当者会では、どの教会も、これらの負担がすでに限界に達しているという声が多く聞かれました。今後数年を見通しながら、教区財政のあり方を、新しい視点を取り入れて考え直す時がきています。しかし、それは、教区の財政部や常置委員会だけに委ねるのではなく、教役者も信徒も、教区財政がどのようになっているのか関心をお持ちいただきたいと思えます。

《宣教》

上記の財政の問題は、教区の宣教とも深く関わってきます。なぜなら私たちの献金は、私たちがキリストの福音を喜び感謝する中から生み出されるからです。確かに高齢化や信徒の減少、経済の不況など、教会をめぐる厳しい現実があります。しかし、どの時代にあっても、教会は決して豊かで不自由のない世界に

生きてきたのではないはずで
す。いつも人々は、「すべて
のものは主の賜物。わたした
ちは主から受けて主に献げた
のです」の信仰に立って、一
生懸命教会を支えてきたので
す。教会が彼らの生きる拠り
どころになっていたのでからで
しょう。そしてそれこそは宣
教の最重要課題だと私は思い
ます。今、私たちの教会は私
たちにとってそのような拠り
どころになっていないでしょ
うか。人々が生きる上で、力が
与えられ、解決の道が示され、
励ましや慰め、安らぎ、希望
が与えられる。教会はそのよ
うにキリストの福音を人々に
伝えるところです。宣教とは、
そのように生かされる人々の
生き方そのものなのです。神
様の愛に包まれ、神様から溢
れるばかりの恵みをいただい
て生きているという喜び、感
謝こそが宣教となり、またそ
こから献金という信仰的な行
為が生まれてくるのです。

教区の宣教に関して、二点
申し上げます。先月、初めて
教役者宣教ミーティングが開
かれました。現役と嘱託教役
者が共に集い、一泊二日で教
区の宣教について話し合う時

を持ちました。二〇一一年に
開催された日本聖公会宣教協
議会では「日本聖公会・宣教
と教会の一〇年・提言」が出
され、それに基づいて、各教
区・教会は宣教の具体的な課
題を定めてそれに取り組むこ
とが決められました。しかし、
このことについて、宣教の現
場にいる教役者たちがじつじ
つ話し合うということは残念
ながら今まで行われませんでした。
今回の宣教ミーティン
グでは、教役者たちがそれぞれ
を整理しながら自分の考え
や思いを分かち合いました。
今回は一回目でしたが、今後、
さらにこれらの課題の優先順
を決め、どのように取り組ん
でいくかを、教役者たちの主
体性とリーダーシップ、そし
て合意の上で決めていくこと
が求められていきます。参加
してくださった教役者たちの
熱意と献身に深く感謝いたし
ます。またこれらの動きが、
教区の宣教活動推進部との協
働の中で進められることに期
待をしています。

次に、青年たちへの宣教、
また青年たちの宣教に目を向
けたいと思います。教会の未

来を担う青年たちですが、同
時に今の教会をも青年たちは
担います。北海道教区の戦後
の歴史で、青年たちの宣教は
目覚ましい働きを遂げたこと
に気づかれます。昔の連合
青年会の会員は、高齢になっ
た今も、忠実なまた熱心な
信徒として各教会で活躍して
くださっていることに私は感
銘を受けます。これらの旧青
年たちは、どこにいても互い
に連絡を取り合い、励まし合
い、祈りあう仲間として、教
区を盛り立ててきてください
ました。時代が変わり、青年
の価値観も変わり、またどの
教会にも青年の姿が見られな
くなってきました。しかし、
敢えて、私たちは今、教会に
来ている数少ない青年たちに
熱い思いを持ちたいと思いま
す。青年たちの創造性や可能
性を信じ、彼らが自分たちの
拠りどころとなる教会を作り
上げるのを応援したいので
す。来年九月には、日本聖公
会全国青年大会が北海道で開
かれます。北海道教区として、
この大会に大いに協力してま
いりましょう。

《安保法制、原発、教会》

今年には戦後七〇年です。私
たちの国が、この七〇年間戦

争に一度も関わらず、従って
戦闘による死者が一人もな
かったこと、また他国の人を
一人も殺すことがなかったと
いうことは、私の出会う海外
の人には信じられないほどの
驚きを与えます。それは先の
アジア太平洋戦争に対する深
い反省の中で、二度と日本は
戦争をしないという誓いのも
とに平和憲法を制定し、それ
を今まで守ってきたからで
す。しかし、政府はこの憲法
九条の解釈を閣議決定で大き
く変更し、安全保障関連法案
を国会で決議しました。これ
により、集団的自衛権行使と
いう名目で海外にまで自衛隊
が派遣されることを認めるこ
とになりました。私たち日本
聖公会は、先の大戦において、
心ならずも当時の政府の政策
に反対することができず、結
果的に戦争に教会挙げて協力
してしまったことを懺悔し、
「平和の器」として、キリス
トの平和の福音に固く立つこ
とを誓いました。今回の安保
法制に対して、私たちはその
取り下げ、廃止に向けた努力
を今後も続けていきたいと思
います。

来年三月で、東日本大震災
発生から五年を迎えます。先

月、主教会が福島県郡山市で
開かれました。そして最終日
は一日をかけて福島第一原発
周辺地域を訪れ、今も放射能
汚染にさらされている現地の
被災者たちの姿に接し、また
その声を、叫びをお聞きしま
した。いたるところに除染し
た土などを入れた巨大な袋が
山積みされています。帰還困
難区域には、いまだに人は入
れず、ゴーストタウン化して
います。また福島第一原発の
事故処理もまだまだ手さぐり
です。そのような現実がまだ
ある中で、原発事故の被災者
が忘れられ、また、原発の再
稼働が各地で行われているこ
とに、福島の被災者たちは怒
りと反対の声を上げていまし
た。日本聖公会は、今もこれ
らの被災者といっしょに歩き
ながら、原発問題に取り組ん
でいきます。私たちも泊原発、
大間原発の危険性について
向き合っていかななくてはな
らないと思います。

神様のお導き、祝福がこの
教区会期も豊かにありますよ
うにお祈りいたします。



「神の器として」

ラザロ 雨宮大朔司祭 追悼

司祭 ジェローム 大友 正 幸



雨宮大朔司祭は去る一月

一九日、静かに、穏やかに七四年のこの世での生涯を終えました。一九六八年青年時代の挫折から立ち直り、聖職の道を志して北海道に渡り四七年、学び、育てられ、神と人を愛し、愛された一生でした。

東京柳原の自宅で最初に逢った大朔青年は、実直で気の弱そうな青年でした。北海道の気風に適合するかどうか、多少の不安もありましたが、彼は聖職としての生涯を誠実に生き続けました。

雨宮司祭は市川聖マリヤ教会の出身で、同教会から多くの聖職が生まれました。そし

て多くは松本正雄老司祭の残された「主のとうと」と見てもうものあり。主の聖徒の死ぬることなり(詩編一一六編一五節 日本聖公会三四年版 祈祷書より)の薫陶を受け継ぎ、継承し主の御許へと召されて往きました。

特に二年前、膀胱癌の発見以来、死と向き合い、死を友とし、そのことを自分に与えられた恵みと受け止め、死を受け入れることよって復活への信仰をしっかりと歩んでおられました。彼は昨年暮れ、次のような詩を残されました。

「私は死を迎え入れて生きようになつて数日後、不思議なことに気が付きました。それは、死がいつの間にか私の直ぐ近くにやってきて、私のそばで、まるで幼子のように明るく無邪気に、嬉しそうに楽しそうにいつまでも遊んでいるのです。・・・そう

かと思うと、私の事を慈しむかのように、優しく、温かく包んでくれて、いつも寄り添って守っていてくれるのです。」そして今年六月には「死よ我が命となれ」と歌いました。

雨宮司祭の残された、この死への信頼の真意は解りませんが、アッシジのフランシスコが自分の死の近いことを悟った時、死に向かつて「吾が友よ！懐かしき吾友よ！吾が親愛なる友よ」と言われた心境に近かったのではないかと思います。

死を受け入れた雨宮司祭でしたが、六月の始め妻と北見の病院を訪ねた時も、八月に植松主教と網走を訪れた時も「札幌でゆっくり静養しては」との勧めに応じず、残された日々を網走での宣教に捧げる覚悟のようでした。

その後、九月二二日札幌で行われた私ども夫婦の金婚式にご夫妻で参加下さり、医師との面談で、聖務を行うのに残された時間があまり長くないのを悟ったのか、札幌に転居し療養することを決断した

ようです。その後残された時間を慈しむように、網走で自然に親しみながら、祈りと牧会の日々を楽しんでいました。一〇月に入り呼吸が苦しくなり、日常でも息苦しさを感ずるようになり、網走での嘱託聖職としての退任を決意され、植松主教に申し出て一〇月三十一日をもって網走での三年七か月の働きを終えました。

私は何度か電話で、教区主教に許可され、皆さんとの別れを済ませたら、引越してはどうでもよい、早めに札幌に来るよう勧めましたが、律義な彼は忠実な僕として最後を全うし、一〇月三十一日札幌へ引越してきました。札幌へ着いて直ぐ彼を診察した医師である私の息子宣の勧めもあり、自宅での酸素吸入を始めました。上野幌の自宅に落ち着いた雨宮司祭をさっそく訪問し、病床聖餐と病人の塗油の式をいたしました。その折マルコ九章四一節以下のみ言葉を読み、手元にあつた、河野進牧師の「病まなければ」の詩を読みました。葬儀の説

教でも読ませていただいた詩です。

病まなければ 捧げえない祈りがある
病まなければ 信じえない奇跡がある
病まなければ 聞きえないみ言葉がある

病まなければ 近づき得ない聖所がある
病まなければ 仰ぎえないみ顔がある
あ、私はやまなければ人間でさえもあり得なかった。

雨宮司祭にとつても病を得て以来、ずっと、読み続けてきた詩のようです。

翌日、早速市内の牧師たちが集まり、雨宮家の新居の祝福をし、ニコラスと札幌キリストの主日礼拝にも参加し、思い残すことなく一九日、昼前眠るように主に召されました。人を愛し、人に愛され、神を愛し、神の器として愛され用いられた、ラザロ雨宮大朔、その祝福された生涯に感謝 ハレルヤ！



雨宮司祭と国際青年寮

札幌聖ミカエル教会

トマス 二島徳三

雨宮司祭は一九八五年四月一日当教会に赴任しました。その前日、タッカー司祭によって建立され約三〇年間、聖ミカエル教会の宣教に大きな働きをしてきた聖ミカエル青年寮が閉寮しました。それから五年後の二〇〇〇年四月、青年寮は「札幌聖ミカエル国際青年寮」として見事に再建されました。雨宮先生が司祭として在職した五年間は、寮再建のまぼろしを抱き、構想、計画、募金、寮規則制定、建築、竣工、開寮にいたる期間と一致しています。先生が最初に行ったのは寮再建のための特別祈祷の作成でした。そこには「どうか、そのために必要なすべての業を、わたしたち一人一人がその分に応じて果たすことができるようにお導きください。」との一文がありました。寮再建は多くの信徒の祈りと支えによって成し遂げた事業ですが、その中心には「四人組」

の存在がありました。雨宮司祭、遠藤淳治、関道子、そして私の四人です。その半数がすでに天国に召されました。

二〇〇〇万円を目標とした募金で、一般向けのリーフレットを作製することにしました。リーフレットでは、各界の著名人や指導的立場にいる方々を賛同者として掲載することにしました。いま思えば、ずいぶん大胆なことを計画しましたが、雨宮先生は大賛成でした。そして夏の暑い盛り、先生と私は賛同者候補者を一人ずつ訪ね、お願いに歩きました。こうして三十一名の賛同者がリーフレットに記載されましたが、これは募金活動にずいぶん力になったと思います。

その他、寮再建にいたる雨宮先生の働きは絶大でした。聖ミカエル教会が二〇〇一年に発行した『五十年の歩み』に先生も寄稿しています。そこには「私のミカエル在任五年間は、青年寮閉鎖と再建とびたりと重複する五年間だった。そこには、神さまが私に託してくださったのは、さな

がらに寮再建請負人としての任務であったかのような象徴的な『時』が刻み込まれている。」と書いています。

一九九〇年四月一日開寮感謝礼拝と竣工式が行われました。式を執行した先生の顔は達成感に満ちていました。本来この日は雨宮司祭の岩見沢聖十字教会着任の日でした。

個人的なことになりましたが、私と雨宮先生は、寮再建の「同志」として強い絆で結ばれていました。二人ともお酒が好きで、よく一緒に飲みました。岩見沢赴任後、先生は大腸の病を経験しましたが、私も責任の一端があるのではと、少し気にしています。亡くなる直前の葉書に「会いたい」と書いてありました。しかし私が会ったのは、すでに納棺をすませた姿でした。それが心残りです。

雨宮司祭様の思い出

網走聖ペテロ教会

和田 弓

私が初めて雨宮司祭に出会ったのは二〇代後半、北見聖ヤコブ教会に通っている時でした。紋別と北見を兼牧されていて、紋別から北見に來られていました。私は一〇年間の北見の生活から、看護の学びを深めるための、東京へ進学する時期に当たっていました。その時に雨宮司祭は、「旅に出かけるのですね。去る者は追わず」と言われた事が、心に残りました。それから三〇年以上の時を経て今度は、網走聖ペテロ教会の嘱託司祭としてお迎えする事になりました。白髪になられた丸顔の雨宮司祭は、好々爺の印象でした。赴任間もなく、吉川司祭の訃報と記念礼拝が札幌の聖マーガレット教会で行われる連絡がありました。誰か一緒に運転してもらいたいと希望され、私は自分の車以外での運転は出来ない事を伝え、デコボコのマニユア

ル車で御夫妻と出かけました。私は初めて、札幌迄運転することになりました。車中吉川司祭との思い出、雨宮司祭のご家族のお話、ご自分が癌の診断を受けた時の気持ち等お話しして下さいました。癌の診断を受けた時に、癌は全く怖くなかったけれど、自分の考える力が衰えることへの不安が強くなったと、話されていました。網走への帰路、ガソリンの補給をし損ない、ゼロメートルになって、雨宮司祭に一番ガソリンの消費の少ない運転をして頂き、網走市内に辿り着いた事も、楽しい思い出です。その後紋別の中西園長が倒れられ、紋別の園長も兼任され、お一人で時にご夫妻で紋別に通われまし

た。その頃に何がきっかけであったのかは思い出せませんが、「若い頃には分からなかったのだけれど、一人一人が重たいものを持って生活しているのが分かるようになった」と言われていました。新たに膀胱癌の発症が分かり、検査や治療が日常に入ってきて、紋





(五頁から)

別での仕事を阿部司祭に引き継がれた後も、網走での活動は活発にされていました。老人福祉施設で生活されている方々、教会生活から離れている方々のところへも、お一人で、御夫妻で、時に信徒を誘って訪問されていました。「僕ね、どちらかと言うと、諦めない方なの」と言われていました。チャコ、チャコと奥様を呼ばれ、礼拝の準備をされていた雨宮司祭の声が思い出されます。網走の教会で出会った一人一人を、大切にさせて頂きました。私は雨宮司祭との教会問答、聖書の勉強会が、とても幸せな時間でした。家庭集会での列王記の学びや、聖歌の学びも面白かったです。

ありがとうございました。

日本聖公会 北海道教区 信仰平和宣言 2015

わたしたちは、日本聖公会北海道教区に属するものとして、我が国の政府が戦後七〇年の節目の年に「安保法制」を強行成立させたことを憂慮し、その撤回を求め、以下のことを確認し、宣言します。

前文

日本の二〇世紀の歴史において、わたしたちの国は、侵略戦争により、また植民地支配によって、アジア諸国の人びとの命を奪い傷つけました。また、わたしたちが暮らす北海道も、強制連行による苦難が刻まれている地である事を忘れてはなりません。わたしたちの国の犯した過ちは、けつして歴史から消し去ってはならないのです。一方、わたしたちの国はその戦争責任の所在をはっきりさせることをしてきませんでした。わたしたちの教会も、戦争

に加担し協力した過去を検証し、反省することを充分にしてきたわけではありません。しかしながら、イエス・キリストの福音は、わたしたちに呼びかけます。神の面前に砕かれた心をもって、罪を懺悔し、平和と和解の主イエスのもとへ立ち帰るように。そして自らが平和の器になるように、と。

神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。Ⅱコリ五章一八

わたしたちは宣言します。すべての国の人々、すべての民族の人々、その一人ひとり、神によって創られ、生命(いのち)を与えられ、愛されている尊い存在です。

わたしたちは国と国、民族と民族、宗教と宗教の対立する世界の現実があることを知っています。しかし、その現実のなかでも、限らない対話と信頼を通じて和解の道を切り開くことを求めて行きたいのです。

ゆえに、わたしたちは、あらゆる暴力・中傷・差別・偏見を退けます。

剣をさやに納めなさい。剣を取る者は皆、剣で滅びる。

マタイ二六：五二
わたしたちは宣言します。今日、わたしたちは、世界中の人々の苦難に連帯することが求められています。

とくに、今なお止むことのない戦争によって、多くの生命(いのち)が傷つけられ、奪われると共に、新たな憎悪と暴力を生み出しています。一方、そのような現実、意図的に覆い隠される事や、わたしたちの無関心の中で、一層深刻化しています。

ゆえに、わたしたちは、日本国憲法の平和主義と、それを守る砦としての第九条を堅持します。他方で、「積極的平和主義」「国際平和支援」「自国防衛」等の名のもとに他国とともに行使しようとする、すべての武力を退けます。

平和を実現する人々は、幸いである。マタイ五：九

わたしたちは宣言します。わたしたちは、世界とそこに生きる人びとの未来に対して、その責任を負っています。とりわけ、明日を担う子どもたちが、自由と平和のうちに希望をもって生きる社会を作り出すために大きな責任を負っています。

ゆえに、わたしたちは、それらをおびやかす「安保法制」および、逸脱した憲法解釈を退け、平和の器として働きます。

この宣言を、今教区会において採択した。

常置委員会報告 第一回 一月二三日

《協議事項》

一、第七四(定期)教区会において選出された常置委員は、大町信也司祭、下澤昌司司祭、池田享司司祭、信徒は、津田武典さん、三浦千晴さん、久末隼一さん。

常置委員長は、大町信也司祭、書記は、久末隼一さんを選出した。

北海道教区第七四(定期) 教区会終了

一月二三日(月) 札幌キリスト教会(主教座聖堂)に於いて聖職議員、信徒代議員、招待議員等六二名が出席し開催された。

なお、大韓聖公会から盧亨昊司祭、金振世司祭が派遣されました。

一 教区会聖餐式・永谷亮執事按手式

総会に先立ち、司式ナタナエル植松誠主教、説教グレゴリー・松井新世司祭により永谷亮聖職候補生の執事按手、教区会聖餐式が行われた。

二 議事開始

植松主教(議長)が、議員資格調査委員等を指名、開会の祈りの後、主教告辞がなされる。

① 主教告辞

「この会期中にお互いに知り合い、交わりを深めていただけだと願います。主なる神様がこの教区会を豊かに導き、祝福して下さいますように、そして……」など多岐にわたり述べられた。

この一年間、北海道教区の教会、信徒一人一人が取り組むべき方向(指針)が示され

ました。全文を本紙の二頁以降に掲載する。味読して行動に移すべきでしょう。

② 諸報告・議案

先議した議案

諸報告に先立ち、「議案一 号新代議員二名の歓迎に関する件」、拍手を持って歓迎。

「議案二 号逝去者記念に関する件」、全員で黙祷した。

「議案三 号大韓聖公会からの参加者を歓迎する件」全員が拍手で歓迎。

盧亨昊司祭、金振世司祭から挨拶を戴き、お土産としてネック・ウォーマーを沢山戴いた。

イ 諸報告

この一年間の取り組みに関し報告され、全員一致で承認された。

報告項目は、常置委員会、管財委員会等全一四項目。

③ 議案審議

・会計監査報告
監査委員の報告を了として、承認された。

・四号議案

二〇一四年度教区一般会計・教役者給与会計決算に関する件。承認された。

・五号議案

二〇一五年教区一般会計・教役者給与会計予算に関する件。承認された。

・六、七号議案

「北海の光」の発行に伴う二〇一四年の決算、二〇一六年の予算。承認された。

・八号議案

特別財産処分に関する件承認された。

・第九号議案

建築融資金委員会規程の一部改正の件 承認された。

・第一〇号議案

「北海道教区青年のための日」設置の件
期間は二〇一六年から二年間、特定二二の主日とする。承認された。

・第一一号議案

美唄聖アンデレ教会と岩見沢聖十字教会の合併に関する件

両教会の合併を承認し、具体的作業に着手し、次定期教区会までにその手続きを完了する。

・第一二議案

「北海道教区信仰平和宣言二〇一〇号」を採択する件
採択された。全文は六ページに掲載。

・一三号議案

教区審判員の指名の承認を求めめる件
提案どおり承認された。

四 参考報告として教区婦人会、教区GFS活動、教誨師活動等の報告があった。

総会は主教の祝祷をもって、すべて終了した。

(報告 久慈)

堅信式受領 おめでとう

札幌キリスト教会

マルコ 中山 博嗣

(二月八日)

聖マーガレット教会

ビンセント 板東 正敏

ルカ 太田 耕平

(二月三日)

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

一月九日(水)

午前一〇時三〇分 於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭 デイビット・M・ラング

一九四六年一月一日

伝道師 千葉 今

一九四三年一月二日

伝道師 田澤 廉

一九四五年一月八日

伝道師 エディス・M・ブライアント

一九三四年一月一〇日

伝道師 遠藤 義三

一九三三年一月二日

伝道師 津田 喜九郎

一九四七年一月二三日

司祭 松島 覚太郎

一九六〇年一月一三日

司祭 八代 欽之允

一九四六年一月一七日

伝道師 エディス・C・ペイン

一九四七年一月一八日

伝道師 青山 操

一九〇八年一月一九日

司祭 小川 淳

一九〇七年一月二三日

司祭 松本 正雄

一九七一年一月二六日

司祭 野坂 保三

一九七五年一月二八日

司祭 佐々木 忠良

二〇〇五年一月二八日

司祭 遠藤 栄

一九四四年一月二九日

主教 フィリップ・K・ファイソン

一九二八年一月三〇日



▽函館聖ヨハネ教会

一月は一日の墓地礼拝からはじまりました。一五日、収穫感謝礼拝、子ども・高齢者祝福式が行われました。高齢者の中には、オランダからのお客様も一緒に祝福を受ける場面もありました。その日礼拝後、小バザーを行いました。手作りのクリスマスグッズ、自慢のケーキ、自家製ジャム、おこわ、農園から直接仕入れた野菜、中古衣料など大勢のお客様で賑わいました。二八日は恒例のアドヴェント準備、大きなリースがベイから見られるそうです。主に感謝。

▽平取聖公会

一月一日に逝去者記念礼拝が奉げられました。本年逝

去された澤家始め縁の方々が出席されました。一九一三年のウォルター・デニングから本年まで七四名のお名前を讀み上げ、追悼いたしました。兩宮大朔司祭のご病氣平癒を毎礼拝でお祈りしていましたが、一九日の逝去は大変残念です。主の御下での平安をお祈りいたします。

一月一四日の道新夕刊にバチラー八重子のアイヌ語聖歌の録音テープが大友司祭の手元にあるとの記事が掲載されました。聴きたいものです。

▽厚岸聖オーガスチン教会

一月八日、釧路礼拝後、有志二名とともに汽車で教会へ。当日の礼拝は福音に登場するやもめの態度を通して、「神の価値観」を考える時となりました。この箇所を通して一コリ一三章のパウロの思

いや、十字架の聖ヨハネの言葉「人生の夕べには、愛について問われるでしょう」を思い返し、今年残りの日々を歩む決意をしました。礼拝後、幾つかの課題を確認。来年の「宣教二一〇周年」については、当日は釧路聖パウロ教会

とともに祝いすることに。帰りのバスは心地よい揺れ。

▽釧路聖パウロ教会

今月はクリスマス準備、大雪で心や足がバタバタと動きまわった時でした。クリスマス準備はオリープ会を中心としたリース作りなど、宣教部の祝会プログラム作成、有志でのトラクト作成、保育園ではクリスマス会祝いの練習

。大雪には各地でも一苦労だったことでしょう。こちらにも有志が沢山汗を流しました。二四日大山遥貴くん誕生(及川正由美子さんの孫)と二日エイミーさん来会に

共に拍手。永谷新執事の誕生と兩宮司祭の逝去が重なり、召命の重さを知る。第六回脱原発学習会を三月一三日に開催決定。

▽帯広聖公会

第一主日諸聖徒日、今年も昨年に倣い「逝去者記念聖餐式(レクイエム)」が行われました。既に天に召された多くの兄弟姉妹を覚え魂の平安を祈りました。「十勝産お豆」の袋詰め作業も、今や熟練の域に達した信徒の皆さんの手

に支えられ、一、七tもの製品が全国に向けて発送されました。ご注文いただいた各教会の皆様へ改めて御礼申し上げます。いよいよクリスマスを迎える頃となり、小貫耕喜兄の指導の下「キャロリング」の練習が始まりました。美しいハーモニーで礼拝堂が満たされています。帯広厚生病院を始め数か所の施設での奉仕が予定されています。

▽有珠聖公会

一月二九日、一四年にわたり有珠聖公会を牧会下さった兩宮司祭の遺影を聖卓の傍らに置いての聖餐式。さながら兩宮司祭と大町司祭との共同司式のような感じでした。

礼拝後、間近に迫ったクリスマスコンサートに向けて、熱のこもった打ち合わせ。公共施設や店舗、バスの停留所に至るまで市内各所のポスター張り分担し合いました。翌日、大町司祭は、宣伝のため教育委員会やマスコミ回り。

また、病床家庭訪問では、先々で、専ら兩宮司祭の思い出と感謝が語られました。

▽稚内聖公会

一月一日。北緯四五。午前六時四五分、ようやく夜が明ける。吹雪の中の天塩川。降り続く雪に宗谷の冬がやってきたことを実感。なかなか温まりきれない礼拝堂で聖餐式。今月は四名。本原満栄姉

寄贈の待望のヒムプレーヤー一式が教文館より届く。一流奏者の伴奏で聖歌を歌える喜びに感謝。礼拝後は宗谷特産の熱いすり身汁が五臓六腑にしみわたった。雪の中のシカの群れに手を振りながら帰途に就く。

▽留萌キリスト教会

一月一日、植松主教授の司式・説教で午後三時から収穫感謝礼拝を行いました。祭壇にはとびきり大きな大根、白菜、キャベツ、そして沢山のリンゴやバナナ等の果物やら他にもいろいろと並びました。手芸の会に来ている方々も交えての礼拝と愛餐

会に続いて、収穫物は破格のバザーですっかり売り切れ。大地の豊かな実りや、今年与えられたお恵みへの感謝をお

献げることができました。

毎主日覚えていた雨宮司祭
逝去の報に接し、魂の平安と
ご遺族の慰めを祈ります。

▽小樽聖公会

八日は、皆さまが丹精込め
た果物、野菜、花、を持ち寄っ
て、収穫感謝を献げました。
これから入院し、手術に向
かわれる方がおられます。ご
回復を祈りつつ、復帰される
その日をお待ちしています。

クラントの灯火と共に降臨
節が巡って来ました。二九日
には、ツリーを飾り付けたり、
玄関廻りに電飾を輝かせたり
と、一同協力してクリスマス
の準備をしました。

▽新冠聖フランシス教会

一月一日は諸聖徒日とし
たが、新冠ではこの時季に「収
穫感謝礼拝」をおこなってい
ます。聖卓の前には白菜や
キャベツなど地の産物や乳製
品が供えられました。礼拝後
には直会(なもらい)ならぬ、
愛餐会です。例によって「奥
田家の牛乳」でカンバイ！

チャンセルの窓の遙か向こ
うには、葉を落とした木々を
通して日高山脈がくつきりと

見えます。そして山からカケ
スが飛来し、落葉をかき分け
てドングリの実をついばみ、
大きい実は木の上で足で押さ
えて割っています。賢い！

▽岩見沢聖十字教会

一月下旬、愛する雨宮大
朝司祭ご逝去のお知らせが届
く。長い間、当教会・幼稚園
の牧師・園長を務められる。
教会と幼稚園からも最後のお
別れに、札幌キリスト教会で
行われた葬儀に参列。

二九日、主教巡回日礼拝。
美唄信徒・幼稚園職員と共に
礼拝をお捧げ。いつものよう
に、植松誠主教様と奥様の
三千代さんから楽しいお話を
伺う。愛餐会では終始笑い声
に包まれる。「天国でもこの
ような楽しい宴会が毎日行わ
れているんだらうなあ」と思
う今日この頃。目指すは天
国！

▽札幌聖ミカエル教会

九日、幼稚園では小山内美
智子さんを招いての講演会を
行った。

二二日に実施されたチャリ
ティーコンサート。多くの観
衆が与えられ子ども聖歌隊、

大人聖歌隊、幼稚園のお母さ
んたちのゴスペルサークル、
卒園したお母さんたちのマ
ザークロスと多くの方々の協
力により素晴らしい時を持つ
ことができたことに感謝。

▽新札幌聖ニコラス教会

二二日、大韓聖公会より来
訪の金振世(キムジンセ)司祭が主日礼拝に
ご奉仕下さった。同日夜、パ
ネリストとして直井岳兄が参
加。また、二五日から毎週水
曜日の夜に夕の礼拝を実施す
る。

▽今金インマ又エル教会

網走聖ペテロ教会で奉仕中
のラザロ雨宮大朝司祭は治療
のため先月末で辞任、札幌に
転居。八日、ご夫妻で当教会
の聖餐式に出席され、丁寧な
挨拶と証をされた。しかし
一九日、逝去。二三日の教区
会終了後、札幌キリスト教会
で約三百名の聖職・信徒らが
集い盛大な通夜が、翌日葬送
式が行われ、道内九教会他で
大活躍の司祭を偲び、魂の光
明と平安を祈った。一日の委
員会で降誕節行事とニコラス
の日(教会創立記念日)を
決定。その祝いと収穫感謝・
子供祝福を二五日に行った。

三〇日の聖餐式で阿部実習生
の奨励があり、ニコラス実習
を終了。主に感謝。

▽苫小牧聖ルカ教会

アルカイダ・ISはどうし
てきたのでしょうか。欧米
の植民地支配や力の介入が原
因ではないでしょうか。祈る。
平和的な解決を。一日、逝去
者記念礼拝を行いお名前を礼
拝堂に展示しました。燻製同
好会寒さに向かい始動する。
一四日、幼稚園聖歌隊スマ
イルのコンサート行われる。

▽美唄聖アンデレ教会

一月八日(日)、池田司
祭の司式で収穫感謝礼拝が午
後二時より行われる。秋の恵
みに感謝して祈り、聖餐を受
ける。二三日に行われた教区
会には正岡兄が出席する。ま
た、同日の夕刻から、逝去さ
れた雨宮司祭の通夜式には正
岡兄、池川兄、藤井兄が出席
し祈りを捧げる。二九日(日)、
植松主教様の司式で岩見沢聖
十字教会にて合同の聖餐式が
行われる。式後に植松夫人も
交えて食事を頂きながら歓談
する。

▽札幌キリスト教会

一月は、教会の内外から
多くの人々が集まり、いつま

でも記憶に残る月となりました。五日、マリア坪内茂さん
が逝去。一〇二才三ヶ月の
地上での生涯でした。七日
午後二時より「札幌ジエネス
室内合奏団」によるチャリ
ティーコンサート。約一一〇

名の聴衆が集まり、献金は
「福島の子どもたちを守る会・
北海道」にお捧げしました。
一五日、子どもと共に捧げる
礼拝に兩宮司祭参列下さり、
礼拝後約二〇分に渡りご挨拶。
翌主日にはご逝去の報。
二三日、二四日にご葬儀が執
り行われました。同二三日に
は永谷新執事の按手式、続い
て教区会が行われました。

▽深川聖三一教会

一 一月三日旭川聖マルコ教
会宣教二二〇年記念礼拝に七
名出席、ご祝儀を贈る。一五
日主教巡回日、収穫感謝祭。
主様ご母堂喜久江夫人より
ご両親ゆかりの当教会を覚え
て献金をいただく。主様は
午後留萌巡回で旅立たれる。
一七〜一九日永谷亮師執事按
手のための黙想会が持たれ教
区主同様、大友、藤井、甲斐
下澤司祭指導に当たり、高木

和枝さんに食事の奉仕をして
いただく、感謝。二三日教区
会に信徒代議員として佐々木
佳三さん出席す。保育園は二
年後新築のめどが立ちそう。

▽網走聖ペテロ教会

歩きたびにミシ、ミシと音
をたて冬の厳しさを感じま
す。八日収穫感謝と子ども祝
福を祈り礼拝が献げられまし
た。一九日前牧師の兩宮司祭
が天に召されました。網走で
の御奉仕に感謝と共に信徒一
同魂の平安を祈りました。

二七日ペテロの会、四名の
出席でリースやツリーの飾り
付け、アドヴェント準備が行
われました。在任の牧師は今
いませんが一人一人愛の心と
力を合わせ礼拝や教会整備、
駐車場管理等もつていきたく
いと思えます。主の御手にゆ
だねて。

▽北見聖ヤコブ教会

車の乗り降りの時に屋根か
らの落雪に注意しなければな
らない季節となりました。
一 一月一日に逝去者記念礼
拝と収穫感謝礼拝を賑やかに
行いました。一三日司祭は施
設を訪問し聖餐式を致しまし

た。二二・二三日の教区会に
は足腰の傷む中、高橋農夫也
代議員が出席その大任を果た
されました。一九日に召され
た兩宮大朔司祭のご葬儀が
二二・二四日と引き続き行わ
れ共に魂の平安をお祈り致し
ました。二九日にはツリーの
飾りつけを皆で行い、さやか
な輝きが点灯しています。

▽室蘭聖マタイ教会

八日吉野司祭来会。聖餐式
午後、昼食後勉強会、祈禱書
の中の平和の挨拶、奉獻につ
いて学びました。各教会それ
ぞれやり方が違うとの説明が
ありました。一九日、兩宮司
祭が主のみ許に旅立たれたと
の知らせあり、ただ驚嘆致し
心より御冥福をお祈り申し上
げます。二二日みことばの礼
拝時、金森兄の長女富田御夫
妻が千葉よりお見えになり共
に兩宮司祭又逝去者の祈りを
捧げました。二九日大町司祭
来会。礼拝時の説教の中兩宮
司祭の遺影を前にして、歩ま
れた生涯をお話され、色々な
病と戦いながらも豊かな聖職
人生を送られた事をお聞き
し、心から感涙しました。

▽紋別聖マリヤ教会

一 一月一日、主教巡回日の
ため植松主教が臨席されまし
た。二二・二三日、教区会の
ため、当教会からは阿部司祭
とエリックソン久美子姉が出
席、執事按手式には聖マーガ
レット教会が母教会である内
竹兄も駆けつけました。当教
会・幼稚園に深く関わりの
あつた兩宮司祭が天に召され
たことに信徒一人一人が祈り
を捧げ、地方の小さな教会に
定住牧師が与えられるよう、
祈っておられた司祭に感謝い
たしました。幼稚園において
は七日、生活発表会が行われ
ました。

▽聖マーガレット教会

杉澤昭作兄の解説による宗
教音楽を聴く会（最終回）を
八日に開催。美しい音色に日
常の緊張から解放されたひと
ときを過ごしました。二二日
降臨前主日、植松主教司式の
下、洗礼及び堅信式がありま
した。洗礼及び堅信を受けら
れたのは、ビンセント板東正
敏さん、ルカ太田耕平さん
のお二人です。当日は、韓国
の大韓聖公会から盧亨昊^{ロヒョンホ}司祭

が補式として参加してくださ
り、多くの仲間と新たな教会
の家族を迎え入れる喜びを分
かち合いました。新しい家族
と降臨節を迎えられることに
感謝。

▽旭川聖マルコ教会

旭川はすっかり雪景色とな
り、クリスマスを待つ季節と
なってきました。パリで、そ
してシリアやトルコ、アフガ
ニスタンで暴力の連鎖が止ま
りません。主の正しい支配と
裁きがありますように。

一 一月三日（火）には
一二〇年記念礼拝とテナー歌
手小貫岩夫さんのコンサート。
圧倒的な歌声を思い出の
場所頌栄保育園のホールで披
露して下さいました。多くの
ゆかりの牧師さんたちにも参
加いただき、すばらしい一日
となりました。

二二日（日）今年最後のマ
ルコ講座開催。教会員の協力
で冬囲いも終わりマルコ教会
も長い冬に備えます。冬の後
には必ず暖かい春がやってき
ます。

主に感謝。